

2026 年度公開科目(クラス授業)のご案内

※やむを得ない事情により、急遽、休講になる場合があります。

◆声楽関係

オペラ演習Ⅱ	モーツァルトのオペラ作品をはじめ様々なオペラの場面を、簡単な小道具等を使用し、実際に歌い演ずることを通してオペラの表現法を学びます。
イタリア語ディクシオンⅡ・Ⅳ	イタリアの歌曲やオペラを歌う上で必須の発音を学び、朗読を実践しアナリゼと共に歌唱法を研究することで、発音の質を高めます。
ドイツ語ディクシオンⅡ	日常の会話体と舞台ドイツ語の発音の違いを知り、音符の上に乗せたときの母音や子音の処理の仕方を、リズム唱や歌唱を通して習得します。
フランス語ディクシオンⅡ	仏語の持つ美しい流れと発音を理解し、ニュアンスをつけて詩を朗読できるようになることで、歌唱表現へとつなげることを目指します。
ミュージカル演習Ⅳ	ミュージカル・コースの科目。ミュージカル作品の舞台公演に向けて、ミュージカルの音楽・演技表現・芝居の基礎要素をより深めて学びます。

◆鍵盤楽器関係

オルガン研究Ⅱ	オルガン作品の様式別(時代・地域)に、奏法及びレジストレーションの知識を得ます。ヨーロッパ各地の歴史的オルガンを紹介し、楽器と作品の関連性を研究します。
歴史的ピアノ基礎講座B	18世紀末～19世紀前半に生み出された楽曲を、当時の楽器(レプリカ)2台を使用し、その時代に固有の楽器の特性、奏法、演奏実践の基礎を学びます。
鍵盤楽器作品分析Ⅱ	ロマン派から20世紀の鍵盤作品の理解を深めることで、より豊かな演奏を目指します。
鍵盤楽器講義(楽曲分析概論)	鍵盤楽器専修1年生の必修科目。作曲者の意図を読み取り、解釈による演奏の違いなどを吟味、比較しながら、様式感のある生き活きとした演奏表現に活かすことを目指します。

◆弦管打楽器関係

室内楽B・D(金管五重奏)	室内楽の基礎を学び、より高度なアンサンブルを研究します。金管五重奏および金管を含む室内楽曲の基本的なレパートリーを修得します。
吹奏楽Ⅱ・Ⅳ	弦管打楽器専修1・2年生の必修科目。ウインドシンフォニーという合奏形態を通じ、吹奏楽のあらゆるジャンルの音楽を演奏体験し、研究します。

◆ジャズ関係

即興演奏Ⅳ	ジャズ専修2年生の必修科目。ジャズ・インプロヴィゼーションをするためのスキルを基にセッション形式で実践します。
-------	---

◆作曲、音楽デザイン関係(ソルフェージュ、楽器製作・音響を含む)

実用音楽ゼミⅡ	実用音楽コースの必修科目。ポピュラー音楽の実践的な編曲法をスタイル別に学び、編曲を行える能力を身につけます。
実用音楽研究Ⅱ	実用音楽コースの必修科目。サウンドトラックの模擬制作を通じて映画音楽作曲技術を周辺から学び理解します。

◆音楽情報、音楽療法関係(音楽情報・社会、マネージメント、西洋古楽、日本伝統音楽を含む)

器楽合奏Ⅳ	多様な人と協働する音楽づくりを通して、参加型音楽活動の基礎を学びます。臨床場面に応じた編曲や指揮などの技術を習得し、音楽の成り立ちを感知し、言語化する力を養います。
マネージメント実習Ⅱ	「演奏会」を一つの時間芸術として捉え、それをデザインするための実践力を養います。音楽作品に関する情報の適切な収集方法を理解すること、演出やプロモーションの優れた先行事例について、幅広い知識を身につけます。
日本伝統音楽表現(箏)Ⅱ	箏という楽器に関する歴史を学び、基本的な奏法を正しく身につけます。

◆音楽教育、幼児音楽教育関係

学校教育専門演習A	教員採用試験対策として、初見視唱・視奏、伴奏付け、弾き歌いの基礎的な知識・技能や豊かな音楽表現を身につけます。
保育内容「言葉」の指導法	幼児の言葉を取り巻く現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。
音楽教育演習(リトミック)Ⅱ	音楽に敏感に反応する「筋肉運動感覚」と「内的聴覚」を身につけ、音楽の諸要素を、身体活動を通して学習するダルクローズの方法論について実践を経て理解することを目指します。音楽作品を身体化する活動をとおして、ダルクローズの理論を活かした、音楽鑑賞・音楽分析を行い、創造的な活動、アンサンブルの力を伸ばします。
子どもの歌とピアノ	子どもの歌について理解を深め、子どもの豊かな歌唱活動を支える指導者としての技術や、音楽的知識・実践的な力を身につけます。

◆基礎科目

音楽概論B	基礎課程の必修科目。西洋音楽の専門的学習に必要な用語や概念を、歴史的背景や事例に即しながら理解できるようになるための授業です。
教育メディア論	基礎課程の必修科目。ICT(情報通信技術)や各種メディアを活用し、情報・メディアリテラシーの基礎的な知識と技能を身につけます。

◆教養科目

人間と行動 B	社会心理学、感覚知覚心理学、認知心理学の分野における心理学の基本的な知識を身につけ、客観的な「こころ」の研究方法を学ぶと同時に心理学的な見方、考え方を習得します。
人間と文化 B	比較地域文化論としての文化人類学を学びながら、世界の多様な社会文化についての知識習得、「他者」への関心を高め、異文化をめぐる問題の理解、文化相対主義をはじめとする文化研究の基本スタンスの体得を目指します。
建築の世界 B	現代建築を取り巻く様々な状況を理解する上で、必要な知識を習得し、建築作品を読み解くまなざしを獲得します。
楽器学概説 C	20 世紀から 21 世紀にかけての急速な社会変化の中で、世界各地の楽器がどのような過程を経て現在に至っているのかを学びます。情報共有化やグローバル化という視点だけでは見えない各国各地域の楽器の特徴を通して、楽器の世界の奥深さ、各地の人々の音に対するこだわりを探究します。様々な事例を通して楽器に関する問題意識を感じる力を養います。

◆外国語科目

外国語コミュニケーション (英語／ドイツ語／イタリア語 ／フランス語)Ⅳ	基礎課程の必修科目。各言語の「読む・書く・聞く・話す」力を身につけ、コミュニケーションできる能力を養います。
ドイツ語上級(会話)B	ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」の練習を通して、日常会話を理解し、会話する能力を身につけます。
英語上級(購読・進学対策)B	リーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身につけます。
ドイツ語初級(文法)B	ドイツ語のしくみの基本を身につけ、簡単なあいさつや会話ができる力、テキストを理解し短い文を自力で組み立てる力を身につけます。
ドイツ語中級(会話)B	ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースで、実践的なコミュニケーション能力の習得をめざします。
イタリア語上級(文法)B	これまで勉強していない文法事項や既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解し味わうことができるようになることを目標としています。
言語と文化(フランス語)B	映像や資料によりフランスの文化と社会のあり方について様々な角度から考察します。日本文化との比較やグローバリズムなどの観点からも考えてみることで、より広い視野も養います。

◆教職科目

音楽科教育法Ⅳ	教職科目。教育上のねらいや目的をもった授業や、多様な教材と学習活動、教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習指導の改善と工夫について研究・学習し、授業実践力を高めます。
教育社会学	子どもを取り巻く問題(学校を巡る近年の様々な状況の変化)を探り、多角的に捉えながら分析します。また、教育が時代や社会に規定されると同時に、規定していくことを理解します。
教職実践演習(中・高)	教職科目(教員免許取得のための科目)。教職課程での学習を総合的に見直し確認するとともに、求められる音楽科教師の資質能力の理解とその向上を図るための学習をします。